

「つばめ街道」の「春の飛来」

春の訪れと共に、五日市周辺にはたくさんのツバメが飛来し、多くの住宅などで営巣を始めます。このため、春～初夏の間は、五日市の檜原街道などを歩く時、ツバメの鳴き声や行ったりきたりの行動を見聞きできるため、とても賑やかになっています。春の五日市には、多くの植物の開花だけでなく、ツバメの仲間も欠かせない存在であると感じます。この先も、そのようであればいいなという想いで今回「ツバメ」を紹介します。

新しい住宅の開発が進むことで、懐かしい街並みの雰囲気がかんかん消えていくことは避けられないようです。新しい住宅は、進化し続けているため人間にとっては驚くほど快適ですが、人間と共に暮らしてきたツバメやヤマモリなどには適さない造りとなっているため、人によっては少し寂しく感じられます。



写真①②：子育て中のツバメの様子（①親、②幼鳥）

写真③：JR武蔵五日市駅の様子。多くのツバメやイワツバメが営巣する場所で、春の間は賑やかになります。

写真④：檜原街道の様子。懐かしい街並みが所々に残り、「つばめ街道」とも言えるほどツバメが飛び回ります。ハイカーなどの姿も目立ち、今は一年の中で最も明るい雰囲気かもしれません。



あきる野の ツバメ

目覚めた自然に溢れる春のあきる野では、多くの野鳥が南国から繁殖のために飛来します。その中に「ツバメ」もいます。日本で見られるツバメのほとんどが海を渡ってきますが、日本の暖かい地域に1年間居続ける個体もいます。そして、ツバメは1種だけではありません！

あきる野の空を飛ぶ「ツバメ・アマツバメ」の仲間を紹介します。「あなたの近くで飛び回る」のはどれですか！



「ツバメ」 おなじみのツバメです。ツバメの仲間でもっとも多く飛来する種類です。青みがかった背中に赤い喉や尖った尾羽が特徴で、実はとても美しい鳥です。

恐らく昔は、ほとんどの家で営巣していたと思われるのですが、現代は、営巣できない造りの住宅が増えていることや、自分の家で巣を作られるのを嫌がる人が増えているからか、巣の破壊などもあるため、減少していると思われます。

しかし、ツバメたちは市街地に発生する虫の増殖を抑えてくれる重要な存在です。

「コシアカツバメ」 その名のとおり、腰が赤いのです。東京では、市街地や平地など局地的に個体群が営巣します。あきる野では、特に秋の渡りで目立ちますが、他の時季でも見ることがあります。



「イワツバメ」 鉄筋コンクリートの橋や建物などをよく営巣に利用し、ツバメの次によく見られる普通種です。場所によっては、冬でも飛び回るツバメの仲間、尾が短く、ずんぐりした感じのツバメです。下面や腰は白い。



「ヒメアマツバメ」

ツバメではなく、アマツバメの仲間、冬の間には個体群が見られる時もありますが、あきる野で観察されるほとんどの個体は春と秋の渡り中のものです。

イワツバメ似ですが、胸は黒いです。

「アマツバメ」 春と秋に渡る個体が多く、特に河川敷や丘陵地、山地上空で一時的にたくさん飛び回ります。ツバメよりも大きく、その姿は小さなハヤブサのようにも見えます。



「ハリオアマツバメ」

アマツバメの仲間のもう1種で、稀に山地で渡り中の個体を見ることがあります。短い尾でヒメアマツバメに似ていますが、下尾筒（尾下）が白く、尾羽の先端は針のように尖っているため、風を切る時に特徴的な音を立てます。